

新年度の市政方向きまる



新年度の市政の方向と事業をきめる3月定例市議会は、3月12日から30日までの19日間にわたって開かれました。この議会では、一般会計で8554.93千円の予算をはじめ、国民健康保険、特別

会計及び、上水道企業再建計画の策定についての議案など、36件にわたる、議案を審議した結果、一部議案の修正可決の外は原案可決とされました。

この議会で佐藤市長は、新年度予算の

説明で、ことしの5つの重点目標を明らかにしましたので、これを市民の皆さんにお伝えし、県内では最も発展途上にある本市の新しい方向についてのご理解を得たいと思います。

重点目標のあらまし

その1 環境の整備



清潔でくらしやすい街づくりのためには、昨年度においても、カヤハエの駆除をはじめ、し尿処理場の建設によってかなりの成果を上げてきました。

また、これに関連した測溝の整備については市政発足以来、市政の一つの眼目として進めてきましたが、今年度から5ヶ年計画でもって、全市の測溝を整備することとし、今年度はさしあたり、新、旧市内を合せて8,000メートルの測溝を整備するために、1,000万円を計上しております。

ゴミの処理については、現在ある2屯積収集車5台に加え、3.5屯積の収集車2台を購入し、定時収集を実施し、収集区域の拡大を図ることにしており、清掃関係費用として2,126万円を計上しております。

公園整備の対策としては、桂城公園を整備するために160万円、清水児童公園をつくるために135万円、また長木川洋面につくる交通公園の費用として50万円がそれぞれ計上されています。

さらに、消防対策としては、市内火災報知器を100基設置する計画をたて、新年度ではさしあたり、旧市内に30基を設置するために390万円を計上しております。以上が新年における環境整備事業のあらましです。

本市の産業構造は、元来、もろい基盤の上に立った弾力性のとばしいものでありましたが、最近脚光を浴びて来た地下資源開発にもなって、地元関連産業も著しく発展しつつあり、市の産業構造もこの地下資源開発によってしだいに変わらなうつつあります。新年度ではこれをさらに発展させるための行政対策措置として50万円を計上しています。

農業の振興については、まず、土地基盤の整備事業を重点的に考えています。ことしは区画整理がまだ実施されていない地区の農業基盤を整備するために227万円を計上しており、すでに終わった地区には、農業経営のための近代的施設をはじめ大型トラクターのオペレーターを養成するための事業として55万円を計上しております。

また、新しい事業としては、山復畜産パイロット事業として葛原地区を指定し、総事業費3,100万円をかけて、面積60ヘクタールの山復に乳牛年間100頭を飼育する計画のもとに、地元負担として今年度は30万円を計上しております。

さらに、農業団体の育成をはかるため今年も農協に対して300万円を助成することにしました。

商工関係では、中小企業育成のため4,000万円、また、貸付機械購入費として150万をそれぞれ計上しております。

その2 産業の振興

